

2019 年度 推薦入学試験（一般推薦等） 法学部 法律学科「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
51	45

※一般推薦（指定校含む）、文化活動推薦、専門・総合推薦の総計

1

2. 法律学科 アドミッション・ポリシー

法律学科は、現実の社会において発生する様々な問題について論理的かつ合理的に考えることができる法的思考能力（リーガル・マインド）を持ち、さらにその能力をもちいて、これらの問題に対して柔軟かつ適切な解決策を導き出すことができる人材の育成を目指しています。

そのため、特に以下の点について、十分な適性と意欲を持った志願者を求めます。

1. 社会の動きに広く関心を持っている人物。
2. 物事を柔軟かつ論理的に考え、それを的確に表現できる人物。
3. 高い志と正義感、忍耐力を有する人物。

A O型入学試験では、志願者の自己推薦ポイント（人間性、活動実績、将来への夢・希望など）が、これから法律学科で学んでいく上でどのような意義をもつかを、みなさん自身の言葉で明確に表現できることが望まれます。

3. 出題の意図

この小論文の出題の意図は、受験生が法律系の学問を専攻する上で必要な能力・関心をどの程度持っているかを見ることである。

本学科のアドミッション・ポリシーのうち、①社会の動きに広く関心を持っている人物、②物事を柔軟かつ論理的に考え、それを的確に表現できる人物であるかどうかを判断するため、まず、問題文の説明について読解し、この小論文で問われているのは、①成年年齢は何歳が適切か、②各種の法律で別個の年齢基準を設けることの是非であることを正確に理解しているかを見る。次に、問題について自らの考えを論じさせることによって、法律的な問題にどの程度の知識・関心を持っているかを見る。そして、解答の全体から文章作成能力のほか、自らの考えを論理的に表現し、展開する能力があるかを問うものである。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

2019 年度 推薦入学試験（一般推薦等） 法学部 地域行政学科「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
71	48

※一般推薦（指定校含）、文化活動推薦、専門・総合推薦の総計

2. 地域行政学科 アドミッション・ポリシー

本学科では、入学者に対して、高校卒業程度の基礎学力を身につけていることに加えて、特に以下の点について適性と意欲を持っていることを望みます。

1. 地域社会の出来事から、広く世界の情勢にまで関心を持ち、常に問題の本質を見極めようと努力する人物。
2. 何事に関しても、しっかりとした自分自身の考え方を持てるように学習し、同時に、他者との意見交換を通して、議論を建設的に発展させ、異なる考え方からも学ぼうと努力する人物。
3. 将来、自ら選んだ職業を通して地域に貢献することを希望し、それへ向けての努力を厭わない人物。

地域行政学科は、行政・民間部門において政策を企画・立案し、実務に対応できる人材、より深い見識と広い視野を身につけ、地域社会の発展に貢献できるような人材の育成を目指します。

特に A O 型入学試験において、私たちは高い志を有し、地域や社会の動きに目を向け、行動力を有する情熱ある志願者を求めます。

これまでの勉強や部活動で得たもの、あるいはこれからの夢を、自分の言葉で表現できる能力を高く評価します。

3. 出題の意図

この小論文の出題の意図は、受験生が、これから地域における行政や政治を学ぶ上で、現代社会についてしっかり関心を持った上で、課題を自分で見つけ、かつその解決方法を考え、表現することができる能力を見ることである。

問題では、まず、今年が「平成最後の年」となることから、いわゆる「平成時代」の政治・経済・社会についての出来事を挙げさせることで、現代社会についての関心や理解度を見る。次に、これらの出来事から得られる教訓を述べさせることで、課題発見能力や課題解決能力、また表現力を見る。

これらは、本学科のアドミッション・ポリシーである①「地域社会の出来事から、広く世界の情勢にまで関心を持ち」、②「しっかりとした自分自身の考え方を持てるよう学習し」、③「地域に貢献し、それへ向けての努力を厭わない」という方針に合致する、また、現代社会の出来事を挙げさせることは、学力の三要素である「知識・技能」に、それらの出来事についての意見を述べさせることは「思考力・判断力・表現力等」や「主体性」等に合致する。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

まず、「平成時代」の政治・経済・社会についての出来事を三つ挙げて説明することができるかどうか評価基準となる。その際、一つ一つの具体的な歴史上の事実を正確に説明できるかが重要となる。

次に、そこから得られる教訓が、どれほど論理的に説明できているかが評価基準となる。ここでは、政治・経済・社会についての出来事の課題や成果を事実に沿って分析したうえで、これからの時代への展望を説明することが重要である。

2019 年度 推薦入学試験（一般推薦等） 経済学部 経済学科「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
59	48

※一般推薦（指定校含む）、文化活動推薦、専門・総合推薦の総計

2. 経済学科 アドミッション・ポリシー

経済学科は、社会経済における諸問題に、目的意識を持ち意欲的に取り組む人材の育成に努めています。そのために、以下のような志願者を求めます。

1. 高等学校卒業程度の基礎学力を有する人物。
2. 経済・社会を含めた諸問題に関心がある人物。

A O 型入学試験では上記に加えて、

経済・社会を含めた諸問題に強い関心を持ち、何らかの解決策を導き出すための「想像力・創造力・表現力」を有する人物を求めます。

3. 出題の意図

与えられた図を分析し理解する力、問題文の情報と図から読み取った特徴などの分析を踏まえたうえで将来の状況を想像する力、想像した自らの考えを論理的に表現・展開する力を問うています。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

問題文や図からの分析したことをうまく活用し、また、学習した知識を事例としても用いて意見を展開したものなど、多様な視点や具体的事例に基づいて論述されているものについては、高く評価しています。

なお、決められた原稿用紙の使い方から逸脱しているもの、全体の文字数の不足、誤字については、減点対象としました。

2019 年度 推薦入学試験（一般推薦等） 経済学部 地域環境政策学科「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
50	46

※一般推薦（指定校含む）、文化活動推薦、専門・総合推薦の総計

2. 地域環境政策学科 アドミッション・ポリシー

地域環境政策学科では、経済の視点から地域と環境を考えることを通して、環境に配慮しながら地域経済の発展に貢献し、持続可能な社会を創造できる人材の育成を目指しています。そこで、本学科では、次の①～⑤について自らの言葉で説明できる志願者を求めています。

- ①沖縄及び世界の経済や環境に広く関心がある人
- ②沖縄地域の経済や環境を含めた、沖縄の過去・現在・未来に関心がある人
- ③様々なフィールド（現場）に出て、積極的に活動することが好きな人
- ④社会で起きている様々な事柄に関心を持ち、地域社会及び世界へ貢献したいという熱意のある人
- ⑤大学の授業に耐えうる基礎学力を有し、勉学に対する意欲がある人

特に A O 型入学試験では、一般試験だけでは測ることが難しい多様な資質を有する学生を受け入れるため、コミュニケーション能力が高く、上記の①～⑤について自らの言葉で表現でき、学内外の活動に積極的に取り組んだ実績があり、それらの活動が、本学科で学ぶ上でどのような意味を持つのかを説明できる志願者を求めます。

3. 出題の意図

この小論文の出題の意図は、受験生が経済学部地域環境政策学科で学ぶ上で必要な能力をどの程度持っているかを見ることである。

まず、問題文にある通り、沖縄県における特徴的な自然環境の具体例を挙げさせることによって、地域環境に対する関心がどの程度あるかを見る。さらに、それらを活用した地域のリーディング産業であり、かつ、世界とつながる観光産業のあり方についての意見と提案を述べさせることによって、地域経済政策に対する関心がどの程度あるかを見る。

最後に、小論文全体において、質問の意味を把握し的確に答える能力があるか、自らの主張を論理的に展開する能力があるか、そして熱意があるかをみる。

これらは、本学科のアドミッション・ポリシーの内容に受験生が合致しているかを判断するものである。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし

2019 年度 推薦入学試験（一般推薦等） 産業情報学部 企業システム学科「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
64	51

※一般推薦（指定校含む）、文化活動推薦、専門・総合推薦の総計

2. 企業システム学科 アドミッション・ポリシー

企業システム学科では、情報化、国際化の進展の中、多様なビジネス活動に対応できる人材の育成を目指し、「マーケティング」「経営」「会計」の3分野を柱に専門的、体系的に学んでいきます。よって、本学科では以下のような志願者を求めます。

1. 基礎的な教養を身につけ、自分自身のスキルや能力を鍛える意志を持っている人物。
2. 企業システム学科で学びたい事を自覚し、表現できる人物。
3. 大学卒業後のビジョンを抱き、地域・国際社会に貢献する意欲を有する人物。

さらに、学力だけでは計れない多様な資質を有する学生をA O型入学試験によって受け入れ、その資質を開花させるために必要な教育を通して将来のビジネス社会で活躍できる人材育成を行います。

A O型入学試験では、特に、次のような志願者を求めます。

- ①他者に誇れる活動や実績等を有している人物。
- ②企業システム学科で学びたい事を明確にアピールできる人物。
- ③大学卒業後のビジョンを抱き、自己研鑽ができる人物。

3. 出題の意図

企業システム学科では学生に、日ごろより、自身の地域がかかえる身近な課題や社会問題(ビジネス・企業問題を含む)に関心をもち、主体的に考えてほしいと思っている。今年度の推薦入試では、受験生にとって身近な地域問題・社会問題をひとつ提示し、それについて考察してもらう。

問題に対して、それを理解し、ふかく考え、自身の見解をまとめ、それを表現する力をみていきたい。理解し、考え、まとめ、表現する過程にあつては、高等学校2年生課程までに修得した知識（たとえば「現代社会」・「政治・経済」・「商業経済」などの科目で修得した知識）を、うまく活用できているかどうかをみていきたい。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

2019 年度 推薦入学試験（一般推薦等） 産業情報学部 産業情報学科「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
43	43

※一般推薦（指定校含む）、文化活動推薦、専門・総合推薦の総計

2. 産業情報学科 アドミッション・ポリシー

1. 将来の具体的なビジョンを描き、自己研鑽できる人物。
2. 情報科学や産業・経済に興味があり、産業情報学科で学びたいことを明確に持ち、意欲的・主体的に勉学に励むことのできる人物。

A O 型入学試験のアドミッション・ポリシー

産業情報学科では産業社会(経済・金融・企業経営など)の基本的なしくみと情報技術について学び、経済活動や日常生活と情報技術の深い結びつきを理解することで、個人が地域社会において果たすべき役割について認識を深めます。

理論と実践が融合したカリキュラムにより、あらゆる産業分野において情報化を推進する「産業の情報化」、情報技術を基に企業や産業の創出・発展を企画し実行する「情報の産業化」が担える人材の輩出を目標としています。

また、学力だけでは計れない多様な資質を有する学生を A O 型入学試験によって受け入れ、個性に柔軟に対応した教育を行い、多元的な社会で活躍できる人材を育成します。A O 型入学試験では、特に、次のような志願者を求めます。

- ①他者に誇れる活動を行った、あるいは行っている人
- ②産業情報学科で学びたい事を明確にアピールできる人
- ③大学卒業後の具体的なビジョンを描き、自己研鑽できる人

3. 出題の意図

この小論文の出題意図は、受験生が、「産業の情報化」および「情報の産業化」が担える人材の輩出を目標とする産業情報学科で学ぶ上で必要な能力をどの程度持っているかを見ることにある。そのため、本小論文は、主に産業・経済分野における情報通信技術の活用や新産業の創出などに関する基本的な関心や理解の程度および想像力などを測る内容であり、本学科のアドミッション・ポリシーとは整合していると考えられる。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

上述した主に測る内容について、優れた学生を特に高く評価したい。

2019 年度 推薦入学試験（一般推薦等） 総合文化学部 日本文化学科「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
49	46

※一般推薦（指定校含む）、文化活動推薦、専門・総合推薦の総計

2. 日本文化学科 アドミッション・ポリシー

日本文化学科は、日本文化及び琉球文化への造詣を深めることを教育上の目的としています。具体的には、言語学・文学を中心とする理論的、かつ実践的な教育を通して、国際社会、情報社会、地域社会の中で自己の役割を深く認識し、生き生きと実践できる人材、そして、豊かな知性、分析力、情報処理能力、表現力、コミュニケーション能力、共生能力を備えた人材を育てていきます。

日本文化学科では、各種入学試験を通して、以下の各専門領域に強い関心を持つ志願者を求めています。

1. 日本語学、日本文学、日本の芸術・芸能
2. 琉球語学、琉球文学、琉球芸能
3. グローバル時代に求められる文化情報の発信技能・多様なコミュニケーションのあり方

特に、AO型入学試験では、以下のような能力、意欲をもった志願者を求めます。

- ①批評・創作(小説、詩、書、絵画、演劇など)を含む広い意味での表現活動、琉球文化の継承発展に関する活動などの領域で優れた実績を上げ、大学生活の中で、さらに深めようとする人。
- ②国語科教員、日本語教員、図書館司書(学校司書を含む)、司書教諭といった当学科の専門領域に関わる職業に深い関心を持ち、それを通して社会貢献を目指す人。
- ③国際交流活動、ボランティア活動、課外活動(スポーツ、文化活動) などを通して広い視野を備え、日本文化、琉球文化、多文化間交流などの専門領域を深く学びたいという意欲を持つ人。

3. 出題の意図

日本文化学科では、アドミッションポリシーに基づき、3つの専門領域への関心の高さを評価するための試験問題を毎年出題しています。今年度は日本語(言語学)分野の問題を出題しました。問1では要約問題、問2では意見文問題となっており、上記の分野への関心进行评估するとともに、大学に入学する上で必要となる基礎的な知識技能である言語運用能力も問うています。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

要約問題については、本文を構成する「問題提起(日本語は他言語と比べて絶対的には難しい)」「展開(日本語を難しく感じる国の人がいれば、やさしく感じる国の人もある)」「まとめ(学習者の国を問わず難しく感じる点は、単語数の多さ、待遇表現の仕組みの2点)」の3点が含まれていれば高い評価を与えています。本文中で多く紹介されている事例を省き、問題提起→展開→まとめという流れをつかむことが重要です。意見文問題については、言語への関心や知識を持つ受験生ほどより深い考察ができる問題になっています。例えば、「ひらがな・カタカナなどの文字の種類の多さ」「漢字の読み方の多様さ」「音の数の少なさ」「動詞の活用のシンプルさ」といった視点から論を展開すると評価の高い意見文になります。また、本学科で専門的に学べる語学(日本語学・琉球語学、または比較対象としての世界各国の言語)との関わりに触れることで、日本文化学科のアドミッション・ポリシーとのマッチングをより強くアピールすることもできます。

2019 年度 推薦入学試験（一般推薦等） 総合文化学部 英米言語文化学科「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
41	39

※一般推薦（指定校含む）、文化活動推薦、専門・総合推薦の総計

2. 英米言語文化学科 アドミッション・ポリシー

英米言語文化学科は、沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーおよび学科の教育目標に照らし、以下のような志願者を求めます。

1. チャレンジ精神と意欲に満ちた人物。
2. 英語力の向上に積極的に努力する人物。
3. 英語圏の言語や文化に強い関心を抱く人物。
4. 他者とのコミュニケーションを大切にし、理想的な人間関係の構築に努力する人物。

英米言語文化学科は、言葉と人間との深いかわりについて学び、言語や文化の多様性を理解することをモットーにして、世界の人々対話・交流するために必要な「真に国際的に通用する実践的な英語力」と、益々グローバル化する社会に対応できる「情報処理技術」を身につけた人材の育成を目指しています。

特に、AO型入学試験では、次のような学生を求めます。

- ①チャレンジ精神と意欲に満ちた人
- ②地域や社会活動に関心のある人
- ③語学と異文化理解能力を身につけ、国内外で活躍したいという志を持った人
- ④英検 2 級程度の英語力のある人が望ましい

* 二次審査では、日本語による面談のほかに、英語による 5 分程度の面談も行います。

3. 出題の意図

英米言語文化学科は、①チャレンジ精神と意欲に満ちた人物、②英語力の向上に積極的に努力する人物、③英語圏の言語や文化に強い関心を抱く人物、他者とのコミュニケーションを大切にし、理想的な人間関係の構築に努力する人物を求めています。本テストにおいては、英語で情報を読み取り、日本語で要約する課題を通して、英語圏の言語や文化に関する興味・関心・知識、一定量の情報を的確に読み取る英語力及び積極性、そして収集した情報を簡潔にまとめる発信力及びコミュニケーションへの意欲を判断します。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

2019 年度 推薦入学試験（一般推薦等） 総合文化学部 社会文化学科「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
31	31

※一般推薦（指定校含む）、文化活動推薦、専門・総合推薦の総計

2. 社会文化学科 アドミッション・ポリシー

社会文化学科は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通りに具体化し、「沖縄」と「人間」について学ぶ意欲と関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人材を求めます。

1. 沖縄を理解するための知的的好奇心と知的探求心をもつ人物。
2. 沖縄をとりまく世界の社会や文化の動きに深い興味と関心をもつ人物。
3. 沖縄をとりまく世界の問題と向き合うための基礎学力を有する人物。
4. 自らの問題意識のもと、フィールド（現場）に出て積極的に情報を集め考え判断し、主体的に行動することができる人物。
5. 国際交流・地域・ボランティア・文化・スポーツなど学内外の活動に主体性と協調性をもって取り組める人物。

A O型入学試験では、上記の5項目のうち、特に1、4、5の各項目を重視します。

具体的には、

○項目1については、「知的的好奇心」や「知的探求心」を、大学生活の中でどのように発揮しようと考えているのかを説明できることを求めます。

○項目4、5については、これまでの実績を具体的に説明できることを求めます。

3. 出題の意図

社会文化学科では、アドミッション・ポリシーに掲げる通り、「沖縄」と「人間」について学ぶ意欲と関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人材を求めている。今回の課題は、近年、沖縄のみならず世界的に課題となっている「自然災害への対応」をテーマとした。本課題はアドミッション・ポリシーに準じ、沖縄をめぐる実際の社会問題に向きあいながら、自分自身の経験などもふまえて、具体的かつ実践的に問題解決の道を探ることを要求するものである。入学希望者がこれに答えるためには、沖縄をふくむ同時代の世界に対する知的的好奇心と、高校までの学びを越えて主体的に知識を深めようとする学習態度が、求められる。あわせて入学希望者の思考力・表現力が問われる小論文形式をとることで、本学科が入学者に期待する学力、ならびに本学科のアドミッション・ポリシーへの合致の度合いを総合的にはかることが、ここでの出題の意図である。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

評価のポイントとして以下の3点を挙げておく。1つ目は、出題者から問われていることが正確に理解できているか、という点である。たとえ内容的には興味深くとも、そもそもその解答が質問の趣旨から外れていれば、高い評価を与えることはできない。2つ目は、同時代の社会に高い関心をもっているか、という点である。今回の設問は、近年、テレビ・新聞などでも盛んに取りあげられている「自然災害への対応」をテーマとした。小論文は知識量を問うものではないが、これまで現代社会の情報によく目配りしてきた受験生ほど、今回の課題には取り組みやすかったものと思われる。3つ目は、必要十分な論理構成力および表現力を身につけているか、という点である。よい小論文を書くためには、様々な情報や自身の経験などをもとに、それらを根拠として論理的に主張を展開していく力が求められる。自分の印象や思いつきを述べるのではなく、根拠をもとに論理的に記述されていることが重要なのである。なおこの点とも関わるが、誤字脱字があまりに多数におよぶ場合や、基本的な原稿用紙の使い方をふまえていないケースも、わずかながら評価に反映している。

2019 年度 推薦入学試験（一般推薦等） 総合文化学部 人間福祉学科
「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

①社会福祉専攻

志願者数	合格者数
26	26

②心理カウンセリング専攻

志願者数	合格者数
23	23

※一般推薦（指定校含む）、文化活動推薦、専門・総合推薦の総計

2-1. 人間福祉学科 社会福祉専攻 アドミッション・ポリシー

社会福祉専攻では、以下のような志願者を求めています。

1. 将来、社会の各分野で社会福祉の専門家として働くことを強く希望し、その素質が十分であると認められる人物。
 2. 社会福祉の分野に活かせる具体的な能力や技能を有し、大学での勉学や将来において活用が期待できる人物。
 3. 将来、アジアや太平洋地域をはじめとする国際的な場における支援活動に参加することを熱望する人物。
- 上記に加えて、A O型入学試験では、以下のいずれかに該当する学生を歓迎します。

- ・社会的マイノリティーの問題を自分の問題として考えられる人
- ・グローバルな視点をもつ人
- ・知的探求心と批判的な思考力を培い、積極的に社会に参画したい人
- ・他者の個性、多様性に寄り添い、他者と一緒に社会の状況を正しく認識し、問題解決のためのスキルを身につけたい人
- ・リーダーシップを発揮できる人。また、自分や他者を肯定的に捉えることができる人
- ・他者と協調、共創するコミュニケーション能力を持つ人

2-2. 人間福祉学科 心理カウンセリング専攻 アドミッション・ポリシー

人間福祉学科心理カウンセリング専攻は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通り具現化し、人間のこころに関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人物を求めます。

1. 人間の「こころと行動」と「人と人とのつながり」について学ぶ意欲と関心を持つ人物。
2. 大学で学ぶことに強い意欲と関心を持ち、自ら学び、常に自己研鑽、自己成長に努める人物。（自分を成長させようという意欲と態度を持つ人）
3. 人間のこころや行動の成り立ち、働きについて、心理学的な立場からの確に理解し、日常生活に実践的に応用したいという真摯な態度を持つ人物。

A O型入学試験では上記に加えて、

- ①人間のこころについて科学的な視点（実験・調査・観察・統計など）から学ぶ意欲のある人
- ②これまでに意欲的に取り組んできた活動や得意分野が、大学で学びたいことに結びついている人を求めます。

3. 出題の意図

今回の小論文試験問題の意図は、本学人間福祉学科社会福祉専攻のアドミッションポリシーの 1. 「社会福祉の専門家としての素質」と 2. 「社会福祉分野に活かせる具体的な能力や技能」および「大学での勉学や将来において活用が期待できる人物」、そして同人間福祉学科心理カウンセリング専攻のアドミッションポリシーの 1. 「人間の『こころと行動』と『人と人とのつながり』について学ぶ意欲と関心を持つ人物」と 2. 「大学で学ぶことに強い意欲と関心を持ち、自ら学び、常に自己研鑽、自己成長に努める人物(自分を成長させようという意欲と態度を持つ人)」を判断するものである。人間福祉学科社会福祉専攻において社会福祉学および心理学を学ぶにあたり、受験生がどの程度準備ができているかを見極めていくことを目的とした出題である。昨今自然災害に関わるニュースは珍しいものではない。受験生が自然災害やその被災者に対しどのような関心や意見を持っているかということを、彼らの大学における学びの準備性を判断する材料としている。さらに、彼らの関心・意見を整理して論理的に文章にすることができる能力を見るものである。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

今回の出題に当たっては、(1)社会の出来事に関してどれくらいの知識・関心をもっているのか、(2)これら出来事をめぐる世の中のやりとり（報道のあり方・意見/世論など）をどの程度知っているのか、(3)これら出来事やそれをめぐる世の中のやりとりに対してどういう意見を持っているのか・意見を持つことができているのか、(4)自分の知っていることと意見として持っていることを、関連づけて自分の考えとして作文していく能力があるのか、の 4 つが評価のポイントとなっている。